

1 平成 29 年（2017 年）1 月～12 月の気象概況

1-1 平成 29 年の東海地方の天候の特徴

○平均気温（平年差）

春の終わりから夏にかけて暖かい空気の影響を受けやすかった一方、11 月から 12 月にかけては寒気の影響を受けやすくなりました。このため、年平均気温は「平年並」となりました。

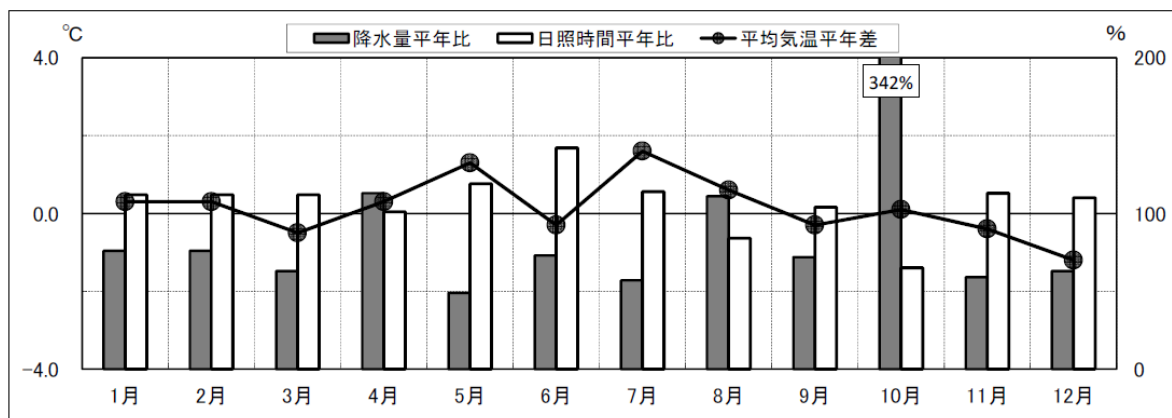
○降水量（平年比）

6 月から 7 月にかけては梅雨前線の影響を受けにくく梅雨の時期の降水量はかなり少なくなりました。一方で、10 月は秋雨前線や台風の影響で降水量はかなり多くなりました。このため、年降水量は「平年並」となりました。

○日照時間（平年比）

8 月はオホーツク海高気圧の影響で、10 月は秋雨前線や台風の影響で、平年に比べて曇りや雨の日が多くなりましたが、その他の月は晴れた日が多くなりました。このため、年間日照時間は「多い」となりました。

※平均気温、降水量、日照時間については、東海地方平均の特徴を記述しました。東海地方平均とは、東海地方にある気象官署及び特別地域気象観測所（14 地点）の平年差・比を平均したものです。



第 1 図 東海地方平均の月平均気温の平年差、月降水量及び月間日照時間の平年比の推移

1-2 月別の東海地方の天候

1月

冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。寒気の影響を受けやすかった時期と受けにくかった時期があり、月を通して気温の変動が大きくなりました。中旬には強い寒気が南下して広い範囲で雪が降り、平野部でも大雪となった日がありました。

2月

冬型の気圧配置や高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、岐阜県山間部は雪や雨の日が多くなりました。10日から12日にかけては冬型の気圧配置が強まり、平野部でも大雪となった所がありました。また、20日と23日は発達した低気圧の影響で大荒れの天気となった所がありました。

3月

天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなったため、降水量はかなり少なく、日照時間は多くなりました。下旬は大陸からの冷たい空気が流れ込んだため、気温が低くなりました。

4月

天気は数日の周期で変わりましたが、高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。ただし、上旬に天気のぐずついた時期があり、17日から18日にかけては低気圧が日本海を発達しながら進んだ影響で大雨となった所がありました。

5月

高気圧に覆われて晴れた日が多く、気温も高くなった日が多くなりました。

6月

上旬から中旬にかけては、大陸からの冷涼な高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。下旬は梅雨前線が本州付近に停滞して曇りや雨の日が多く、梅雨前線上の低気圧や暖かく湿った空気の影響で大雨となった日もありました。

7月

上旬から中旬にかけては、梅雨前線が日本海に停滞し高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。下旬は前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなり、大気の状態が非常に不安定となり、所々で大雨となった日がありました。

8月

上旬から中旬にかけては、気圧の谷や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多くなりました。特に7日から8日にかけては台風第5号の影響で広い範囲で大雨となり、その後も大気の状態が不安定で、所々で大雨となりました。下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。

9月

低気圧と高気圧が交互に通過して天気は数日の周期で変わりました。上旬は冷涼な高気圧に覆われて低温となった時期がありました。中旬は台風第18号の影響で、下旬は低気圧の影響で大雨となった日がありました。

10月

上旬は天気が数日の周期で変わりましたが、中旬から下旬にかけては本州の南岸に停滞した秋雨前線や台風の影響で曇りや雨の日が多くなりました。このため、顕著な多雨と寡照となりました。下旬は東海地方に上陸した台風第21号と接近した台風第22号の影響で、各地で大荒れの天気となりました。

11月

天気は数日の周期で変わりましたが、上旬と下旬は高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。中旬の後半から下旬の前半にかけてはこの時期としては強い寒気が南下しました。

12月

冬型の気圧配置となって平野部では晴れた日が多くなりましたが、下旬の後半には強い寒気が南下して平野部でも雪の降った日がありました。岐阜県山間部では雪の降った日が多く、特に中旬のはじめ頃は冬型の気圧配置が強まって山地を中心に大雪となりました。

1-3 梅雨

梅雨入り：6月21日ごろ「かなり遅い」（平年：6月8日ごろ）

梅雨明け：7月15日ごろ「早い」（平年：7月21日ごろ）

6月上旬から中旬にかけては、大陸からの高気圧に覆われて晴れた日が多くなりましたが、下旬は梅雨前線が本州付近に停滞して曇りや雨の日が多くなりました。このため、梅雨入りは6月21日ごろと平年よりかなり遅くなりました。7月前半は梅雨前線が日本海へ北上し晴れた日もありましたが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨となった日もありました。7月後半は太平洋高気圧の張り出しが強まり晴れた日が多くなりました。このため、梅雨明けは7月15日ごろと平年より早くなりました。

なお、6～7月の2か月間の東海地方の降水量の平年比は67%で「かなり少ない」となりました。

第1表

梅雨の時期（6月～7月の各地の降水量とその平年比

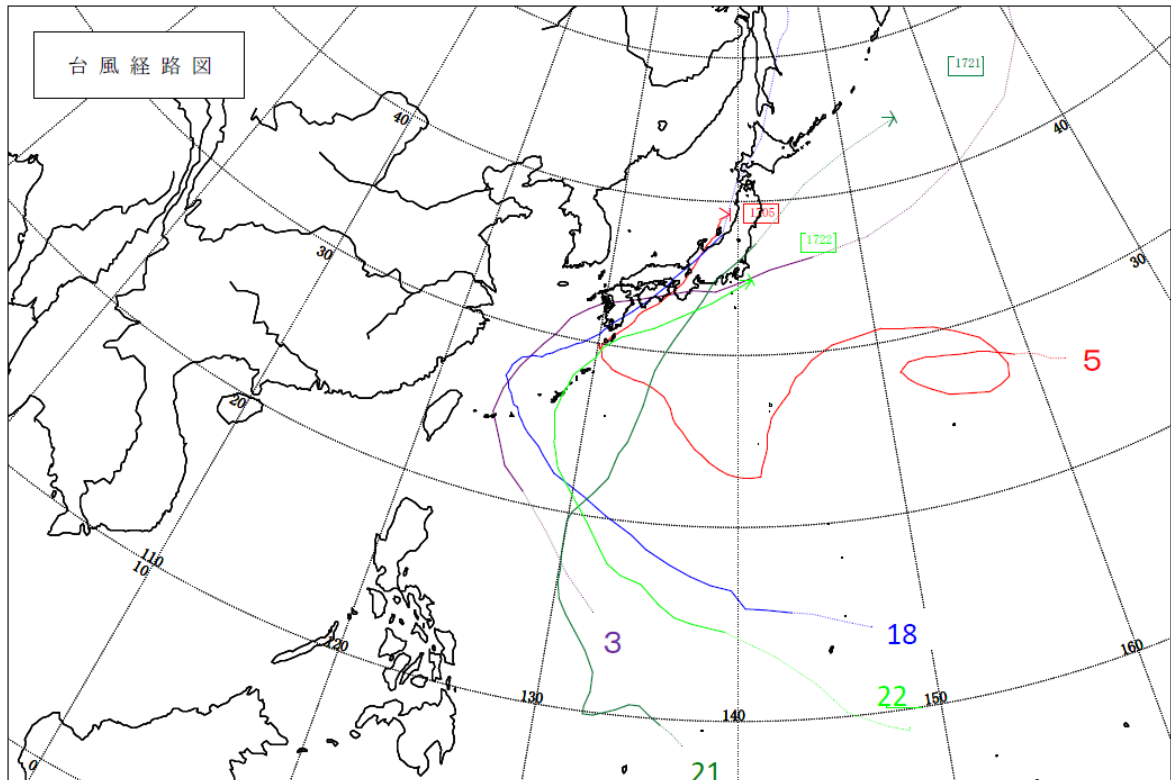
地点名	降水量 (mm)	平年比 (%)
名古屋	398.0	98
伊良湖	219.5	65
岐阜	423.5	84
高山	362.0	90
津	179.0	47
尾鷲	674.0	84
上野	225.5	58
四日市	314.0	67
静岡	544.5	95
浜松	310.0	72
御前崎	219.0	46
三島	170.5	39
石廊崎	210.0	49
網代	212.5	43
東海地方平均		67

1-4 台風

平成 29 年の台風発生数はおおむね平年並となりましたが、7 月は平年を上回りました。台風の上陸数は 4 個（台風第 3、5、18、21 号）、東海地方に接近した台風は 5 個（台風第 3、5、18、21、22 号）となり、ともに平年を上回りました。

第 2 表 台風の発生数・上陸数及び東海地方への接近数

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
平成 29 年	発生数				1		1	8	5	4	3	3	2	27
	上陸数							1	1	1	1			4
	東海接近数							1	1	1	2			5
平成 28 年	発生数							4	7	7	4	3	1	26
	上陸数								4	2				6
	東海接近数								2	1	1			4
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数	-	-	-	-	0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0	-	2.7
	東海接近数	-	-	-	-	0	0.2	0.5	1	1	0.5	0	-	3.3



第 2 図 平成 29 年に接近した台風の経路図（台風第 3、5、18、21、22 号）

※実線は台風の期間、点線は熱帯低気圧または温帯低気圧の期間